

博士論文

現代中国の高等教育における愛国者育成に関する研究

—大陸外中国人の学生に焦点を当てて—

(論文の要約)

庄 瑜

広島大学大学院国際協力研究科

2021年3月

本研究は、大陸の大学で学ぶ大陸外中国人における「愛国者としてのあるべき姿」、すなわち、公定愛国者像をめぐる、政府と大陸外中国人学生の間立ち現れる相克と融和のプロセスの様相を、中国東南沿海部に位置する華僑大学と暨南大学を事例として考察を行ってきた。高等教育分野にした理由は、香港の青年たちを筆頭に、大陸外中国人青年の愛国心の低下が顕著であることを意識した中国政府は、大陸外中国人を団結するための統一戦線工作において大陸外中国人青年の工作に焦点を当てたこと、高等教育分野においては愛国者育成の関連教育が盛んにおこなわれていること、などの背景があったためであった。

これまでの研究では、中国大陸部の公定愛国者像、および香港における愛国者論争とアイデンティティ問題に関する蓄積がなされてきた。しかしマカオ、華僑を含む大陸外中国人全体の公定愛国者像と、彼らにおける公定愛国者像の受け止め方については、あまり言及されていなかった。本研究はこの空白を埋めるべく、香港、マカオ、華僑という、大陸外中国人全体へのアプローチを行った。

党・国家が追求する大陸外中国人の愛国者像はいかなるものであるかを明らかにするために、まず第一章の第一節から第二節までに、公定愛国者像を規定する上からのナショナリズムの発展について社会的な考察を行った。そのうえで、中国大陸人の公定愛国者像と大陸外中国人の公定愛国者像におけるそれぞれの特徴を浮き彫りにした。そこでわかったのは、中華人民共和国成立してから現在に至るまで、中国公定ナショナリズムは、社会主義イデオロギーを堅持するナショナリズム（1949年—1976年）、経済中心ナショナリズム（1977年—2002年）、大国ナショナリズム（2003年以降）といった発展があったということである。そうした発展と相まって、大陸部公定愛国者像、大陸外中国人公定愛国者像ともにイデオロギーを緩めたり、強めたりするように調整するような政府の動きが存在することが指摘できる。大国意識を前面に出す習近平時代においては、中国の国力の増大に伴い、グローバル世界で中国観・中国像を塗り替えようとする動きがある。中国に肯定的なイメージに害を与えた、反政府要素を含めた政治運動を食い止めるために、「一国」の重要性を強調し、大陸外中国人における公定愛国者像を締め付ける要素の強いものになってきたことが分かった。これに対して、大陸外中国人らは、愛国心については多様でリベラルな考え方を示しており、政治運動や独立運動を起こすまでになっている。近年における、香港中文大学民意調査プロジェクトなどの世論調査から、香港の若者を主とする大陸外中国人は「愛国心が低い」という結果がでてきた。こうした中国政府が求める公定愛国者像と、大陸外中国人における愛国心の相対的な乖離を埋めるために、各分野においては、優遇配慮策と交流拡大策を講じていた。高等教育分野においては、大陸外中国人が中国に進学するというルートを拡充し、中国大陸にやってくる大陸外中国人学習者の人数を増やそうとしている。そこで、新たな誘因策、方法論によって、大陸外中国人における公定愛国者の育成を図っている。一方、中国政府は、優遇・交流措置、愛国者育成教育を受けている大陸外中国人が、直ちに政府に求められる愛国者に転身することが難しいと考えており、これらの方策を通じて、まず彼らの中国観をポジティブな方向に導くことを望んでいる。

このような背景の中で、第二章では、大陸外中国人の愛国者育成に向けた高等教育機関における政策的の取り組みについて明らかにした。第二章では、大陸外中国人を受け入れるための高等教育の歴史的な展開を考察し、中国公定ナショナリズムの各時期とも重ねる調整期（1949年—1976年）、規範期（1977年—2000年以降）における学生募集と学生支援に関する優遇配慮策と愛国者育成カリキュラムの変遷について分析した。第二章で明らかにしたのは、中国政府は、大陸外中国人学生に向けて、多様な募集ルートや、充実した奨学金体系といった手厚い優遇策を講じている。そして、こうした優遇政策に恵まれている中で、大陸外中国人学生の数が年々に増加する傾向がみられた。中国教育部は、大陸外中国人学生を受け入れる高等教育機関に対して、国情教育など思想教育を実施する指示を出した。高等教育機関は、中国教育部の指導のもと、自らのイニシアティブで愛国者育成に関連するカリキュラムを作成した。愛国者育成教育の内容は大学によって異なっている。北京や広東省など地域においては、高等教育機関が連合する形で愛国者育成教育を行う場合がある。

第三章では、事例研究を通して、大陸外中国人に向けた大陸高等教育機関の愛国者育成の具体的な取り組みについて考察した。主に、大陸外中国人に向けた思想教育カリキュラムの内実、大陸外中国人学生に親和的な学習環境づくりといった二つの側面から分析した。事例として取り上げられる華僑大学と暨南大学は、政治的イデオロギー色が薄い、歴史・文化要素を主軸とした思想教育カリキュラムを設置した。そこで、ナショナルレベルな内容を中心とする教科活動と体験型歴史・文化・国情活動を含んだ、一年中活発に行われる正課外活動を展開することで、大陸外中国人に対する愛国者育成教育を進めている。思想教育カリキュラムの教育内容は、主として肯定的な中国イメージを大陸外中国人学生にアピールすることである。事例対象高等教育機関は、文化の多様性にも注意を払いつつ、大陸外地域の歴史、文化の宣伝を積極的に行っている。また、事例対象高等教育機関は、大陸外中国人学生の学習生活、そして愛国者育成教育を円滑にするために放課後の学習支援、学生寮環境の改善、学生会活動の資金的支援など大陸外中国人学生にとって親和的である学習生活環境の整備に努めている。

大陸外中国人はどのように受け止めるかについて、第四章では、事例対象高等教育機関で在籍する大陸外中国人学生へのインタビュー調査結果を用いて、愛国者育成教育を含んだ大学学習生活を経験してきた大陸外中国人における中国観の変化を通じて明らかにした。主に思想教育カリキュラムと中国観の変化、学習生活環境と中国観の変化、香港、マカオ、華僑学生それぞれ中国観の変化と不変という三つの側面から分析した。事例対象大学における大陸外中国人学生らは、大学に進学する前に、多様な中国観を持つものの、大学で全力で取り組む歴史文化活動に参加することで、中国の歴史・文化的要素に対し、進学前より認識を深め、親近感が増した、また、大陸外中国人にとっては、親しみやすい学習生活環境の整備について満足をしめているということが共通している。

融合の部分について、大陸外中国人学生が大陸大学に入学した以降、中国大陸大学の教育観、学力観、学校文化、国情を自ら体験し、中国に対する認識自体は深まってきた。そして、大学で行われた優遇配慮措置、愛国者育成教育の結果、一部の大陸外中国人学生が進学する前に中国大陸に対する否定的なイメージをポジティブな方向に変わってきた。さらに、インフォーマントの中には、中国と大陸外地域の交流の深化、発展に貢献しようとする学生もいるという点から見ると、政府の政策意図は、課題を残しながらも外れてはいないと分析できる。つまり、そうした歴史文化教育を中心に、多様な実践活動が展開できる愛国者の育成方法は、学生の中国観を肯定的な方向に導くものとして推進されていると考えられる。また、大学で講じられる大陸外中国人学生にとっては親しみやすい学習生活面の配慮策は、大陸外中国人学生の大学という小さいな中国社会に良い印象をつけ、こうした大学の取り組みをサポートする中国政府の姿勢を評価するものが多かった。相克の部分について、大学内でみられる言論自由に対する制限、民主雰囲気欠如、または大陸外中国人学生の居住地より遅れている環境意識、市民素養、福祉政策など文化的・社会的差異は、学生の否定的な中国観につながっている。

世界で存在する硬直した中国のイメージを乗り越え、グローバルな社会において齟齬が生じない中国観を形成しようとする中国政府は、このような、文化的社会的差異からもたらした相克を受け、現在、教育方法や教育内容の改良に積極的に取り組み、大陸外中国人学生のより肯定的な中国観の形成に導き、中国の愛国心というものについてのグローバルな親和性、了解可能性を高めようとする。今後は、研究対象の範囲を広げて、全国的な動向を注視していきたい。